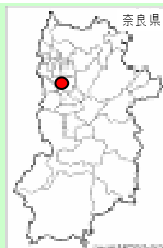


大和高田市特集

マンションにおける自主防災組織



1. 特徴

「ネオシティ大和高田」は、5階建て3棟からなる集合マンションで、平成6年3月から平成7年8月に分譲され、現在約500世帯2000人(高齢化率10%)が暮らしています。居住者の多くは、30～50歳代で、立地条件から大阪への通勤者が多く、自主防災活動を推進するうえでは決してよい条件とは言えませんでした。

2. 自主防災組織結成

平成7年の阪神淡路大震災で自主防災の気運が高まったことが、4年後の組織結成に繋がるのですが、その間には自治会(管理組合員でもある)役員が中心で行った夏祭りやさまざまな啓発活動が知り合う場となり、防災に関する人々の興味や関心を少しずつ惹きつけていきました。マンションの場合は、自治会主体や管理組合主体、両者をあわせてのものなど様々な組織を母体とするケースがありますが、この場合、管理組合の構成員が組織に入ること、建物設備や予算にかかわる問題への対処がしやすくなるメリットがあります。



畝傍山から



防災訓練

ネオシティ大和高田自主防災会



◆平成10年に居住者の承認を得て、自治会、管理組合が中心となって平成11年結成

◆体制

本部長＝自治会長
副本部長＝管理組合理事長
班長・副班長＝各組織役員
班員＝小・中PTA、評議員

3. 自主防災活動

最初の活動として「防災意識アンケート」を実施し、居住者の防災に対する意識度を知るとともに、防災知識の習得にも役立てました。以下は、マンションでの自主防災活動に参考となる取り組みを取りあげました。

(1) 防災意識の高揚対策

- ・敷地内駐車場の取り締まりの徹底(一時避難場所は駐車場)
- ・敷地内夜間パトロール(防火・防犯)
- ・「防災マニュアル」と「マンション便利帳」を作成・配布

(2) 防災コミュニティづくり

- ・マンション内への消火器の配備による初期消火の徹底と迅速化
- ・規約、班編制、組織づくりの工夫

(3) 防災行動力の向上

- ・集合型住宅における体験型防災訓練の実施
- ・隣接自治会との連携

(4) 防災資機材の整備

- ・マンションの環境を考慮した備品整備 (今後の検討課題も一部含む。)

結成後も、一つ一つ活動を積み上げることで、防災、防犯、安全・安心の意識を広げていく貴重な活動を行っています。

「自主防災組織における検討委員会」を設置し、活動における課題を整理して、問題があれば解決できるよう話し合いを続けています。「顧問」や「相談役」に本部長等の経験者が就任して活動の継続性を持たせています。結成には、まず人の確保が一番、どれだけの人とコミュニケーションがとれているかによるところが大きいと思います。



後列(左より)：角顧問・船津顧問
前列(")：矢田相談役・小林本部長・池上顧問

大和高田市

まちづくり振興室 伊東室長からの一言

§「大和高田市自主防災組織の概要について」§

本市の自主防災組織の結成率は、平成22年4月現在42.0%で、24の組織が結成されています。現在、結成率の向上にむけ、市内のマンションに自主防災組織の結成依頼を行っています。また、地域の防災リーダーの育成、地域防災力向上のため防災出前講座を実施する計画をしており、今後、地域防災の充実、自主防災組織の結成にむけ努めてまいります。

【編集後記】

今回は、マンションにおける自主防災組織の取り組みについて取材に伺いました。「ネオシティ大和高田」の皆さんは、日頃よりさまざまな研修会に積極的に参加され、活動に活かされています。こういった取り組みが県内一円に広がっていくことを願っています(友)